

■リーダーズ・ナウ [在学生・卒業生インタビュー]

応援団に初の女性団長誕生

学ラン姿の紅一点もリーダー部で活躍中



●法学部4年次生
黒澤 花衣 さん



法学部2年次生
竹内 美沙保 さん

応援団といえば、パンカラ、男らしいイメージが強い。しかし現在、関西大学応援団を率いるのは創設以来初の女性団長・黒澤花衣さん。また、リーダー部にも紅一点・竹内美沙保さんが学ラン姿で奮闘中だ。

「フレイ、フレイ、カ・ン・ダイ！」

張りのある声が吹奏楽と共に会場に響き渡る。チアリーダー部と学ランのリーダー部員を従えて、凛々しい羽織袴姿で指揮を振るのは、関西大学応援団第92代団長・黒澤花衣さん。総勢100人を超える応援団を率いる初の女性団長だ。

応援団はリーダー部、吹奏楽部、バトン・チアリーダー部から構成されている。黒澤さんはバトン・チアリーダー部に所属。団長は応援を統率する役割のリーダー部から選出されるのが通例だが、黒澤さんの学年にはリーダー部員がいなかった。「第92代の団長を誰がやるか？」を話し合う中、既に副団長候補の役職に就くはずであった黒澤さんが手を挙げて、重責を引き受けた。

応援団の活躍の場は幅広い。入学式や卒業式、オープンキャ

ンパスなどの大学の公式行事にその存在は欠かせない。関西学院大学との総合関関戦、野球をはじめとするスポーツの試合や大会では、応援席を一つにまとめ、熱い声援で選手たちの活躍を後押しする。毎年9月に開催される関西四私立大学応援団連盟による公開イベント「四雄の宴」、関西大学統一学園祭のフィナーレを飾る「後夜祭」などのステージ活動もある。今年はソチオリンピックに出場した体育会アイススケート部の高橋大輔さん、町田樹さんの壮行会や応援会もあった。

黒澤さんは昨年末の幹部交代式で団長に就任して以来、身長153センチと小柄な体格を感じさせない堂々とした団長ぶりで団員をまとめる一方、演舞においても会場中の視線を一身に集めてきた。

その勇姿に「美しさと逞しさが共存していて、私たちが誇らしいです。団長はリーダー部出身ではないことが、かえって他パートから見たリーダー部員の姿など、今まで気付いていなかった部分にハッとさせられることも多いです」と話すのは2年次生の竹内美沙保さん。リーダー部でただ1人の女性部員だ。大学入学時、新入生歓迎演舞でリーダー部員の袴姿にあこがれて入団を決め、1年間が過ぎた。「それぞれの応援や舞台は、その目的や客層に合わせて構成や演舞を変えるなど、多くの準備期間と工夫や経験がかかわりあっているのだと、作り手の立場になって感じられるようになりました。卒業された先輩方からの指導や励ましも頂きながら、迫力のある指揮を振り、皆さんに元気を届けていきたいです」と竹内さんは話す。

黒澤さんを中心に今年度の団の方針を「想」と決めた。「日々の活動で出会う人との縁を大切に一つひとつの行事に“想い”を込めて全団員全力で頑張っていくことと、我々の活動が多くの方の“想い”に支えられていることを忘れずに、常に感謝の気持ちを持って活動することの2つの意味があります」と黒澤さんは説明する。「自分が先頭となって実行する姿を見せることで、団員が“想”の方針に基づいて行動できるようにしたいです。団員全員が頼りにしてついでくる、そんな団長像が理想です。伝統を守りつつ、新しい挑戦を続け、いつまでも上昇していく応援団になるよう励みます」と今後への決意を語った。



気迫のこもった応援の型をとる黒澤さん(左)と竹内さん



待望のファーストシングルが好評 伸びのある透き通った歌声で魅了

次世代の実力派シンガー

●シンガー
S-KEY-A (中島早紀) さん —文学部 2008年卒業—

今年1月末に自身初の両A面シングルCD『I know... / Gift』を発売、ライブ活動も意欲的に行っている関西大学出身のシンガーS-KEY-A(中島早紀)さんへの注目が高まっている。切なく憂いを帯びながら、強く伸びのある歌声に魅了される聴き手が増え始めているのだ。

S-KEY-A —スキア
■1985(昭和60)年大阪府生まれ。本名 中島早紀(なかじま・さき)。R&B、ポップスを得意とするシンガー。2004年追手門学院大学大手前高校卒。2008年関西大学文学部卒業。2006年『Boom Boom Boom』でiTunesデビュー。他に『アイシテル』『Okay』を配信。2014年シングルCD『I know.../Gift』をリリース。関西・首都圏を中心に精力的にライブ活動を展開。ポイストレーナー、作詞家としても活躍している。UNORTHODOX所属。

シンガーを志したのは中学2年。宇多田ヒカルやマライア・キャリィに衝撃を受け、ポイストレーニングのレッスンを開始した。高校1年の夏から1年間、アメリカへ留学した際に、コーラスのクラスを選択した体験は、歌への気持ちを更に強くした。帰国してからは、シンガーを目指して数々のオーディションに挑戦した。その1つ、『MTV STAR TOUR』が彼女の存在を全国区に押し上げた。優勝こそ逃したものの7人のファイナリストに最年少で残り、実力派の次世代シンガーとして音楽業界に強い印象を残した。

関西大学に進学すると、学業と音楽活動に打ち込む毎日さらには多忙を極めるようになった。レッスン、ライブ、打ち合わせの連続。作詞も始めた。もちろん大学の講義もある。ライブのために夜行バスで大阪と東京を往復し、徹夜明けで講義に出ることもあった。2006年には安室奈美恵などのプロデュースも手がけるNao'ymtとコラボレーションした曲がiTunesで配信され、R&B/ソウルチャートで3位のスマッシュヒットを記録した。しかし、願っていたメジャーレーベルからのソロデビューには至らなかった。4年次になってもシンガー以外の進路は考えられず、就職活動は全くしなかった。自身が作詞も手掛け、言葉に興味があった彼女は、阿久悠の歌詞についての研究というユニークな卒業論文をまとめて卒業した。

しかし、卒業してしばらくすると音楽から少し距離を置くようになってしまった。

「ティッシュ配りのアルバイトをしていた時に、社会人になっ



た大学の友人がスーツ姿で通り掛かったんです。精神的に疲れていたのかもしれないけれど『私、何やってるんだろう？卒業したのに、まだ親に迷惑をかけて。一回ちゃんと働いてみよう』と思って、新聞社で週5日の受付の仕事を始めました。遅ればせながらの社会人生活は新鮮だった。大学時代にはできなかった女友達と遊びに行くなど普通のことですごく楽しかった。しかし、音楽の夢が彼女の中から消えることはやはりなかった。社会人4年目の頃、ポイストレーナーの仕事の声が掛かり、タレントスクールで子供たちを教えることになった。

「夢に向かってまっすぐな子供たちに『あきらめたらあかんぞ！』と励ましているうちに、生徒の見本として自分自身がちゃんと頑張りたいという気持ちが出てきたんです」彼女自身が音楽に前向きになると、待っていたかのようにかねてから出たかったFM802のイベント「MINAMI WHEEL」の出演が決まり、やがてCD発売へと物事は自然に動き出していった。今回のシングルのプロデューサーである石井健太郎氏は、「ポジティブな思考が歌に現れている。音楽を全身で受け止めて表現する、信頼できる歌い手」と彼女を絶賛する。順調に再始動した歌手活動に加えて、ポイストレーナーとしても実力を発揮し、プロとして活躍する教え子も出てきた。作詞家としてもEXILEの妹分グループFlowerに昨年、詞を提供した。「今やるべきことをやっていきたい。目標は音楽を続けていくこと。もう音楽をやっているだけで『生きている』と感じるんです」S-KEY-Aさんが立つこれからの人生のステージには、きっと素敵な歌声が響くだろう。

